

第32回

超高齢化社会を迎えるための

エクステリア対策 ～インタビュー編～

- 介護を交えたエクステリア提案が増えてきた
- 今後、さらに介護エクステリアのニーズが増えてきそう
- 介護エクステリアの提案力をもっとつけたい
- 介護・リハビリテーションのプロの視点からみたエクステリアとは？

今回も「介護エクステリア」をテーマに、静岡県浜松市にある保健医療福祉の総合大学『聖隷クリストファー大学』の助教であり、作業療法士でもある中島ともみ先生のインタビューをお送りしていきます。

家族の誰かを介護するにあたり、またはいずれ来る自分の老後に備えてお住まいを介護しやすい設計にリフォーム・新築する方も非常に多い中、エクステリアにできることはもっとたくさんあるのではないのでしょうか。これまでに介護用エクステリアを設計したことのある販店さんも多いとは思いますが、介護のプロフェッショナルから見た現在のエクステリアはどのように見えているのか、具体的なお話をいろいろかかってみました。

話し手

聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部
作業療法学科助教 中島ともみ先生

聞き手 (株)クラッソーネ「エクステリアの匠」
事業部長 加納 拓



(株)クラッソーネ
「エクステリアの匠」事業部長
加納拓

著者プロフィール

一級エクステリアプランナー。大手ハウスメーカーのトップセールス営業として8年間勤務し、二級建築士の資格を取得。2013年5月に(株)クラッソーネに入社し、同社が運営する優良エクステリア業者紹介サービス「エクステリアの匠」の事業部長に就任。現在はエクステリアWEBマーケティングのプロフェッショナルとして700社以上の提携業者サポートと、年間2000件のエンドユーザー対応を行っている。データや数字から導き出される的確な判断は、業界関係者から厚い信頼を寄せられている。

今回のテーマ

④ 介護とエクステリアに共通する考え方は「個別の事情に対応する」

◆「どうしたいか」「どうするべきか」を一緒に考えていくという共通点

―前号でお話しいただいたテーマでは、一般的な建築と作業療法での根本的な考え方の相違点についてお話しいただきました。そしてこのシリーズにおいて最後となるテーマ



中島ともみ先生

は、両者の共通点についてになりま
す。

中島 作業療法と建築における最も
大きな共通点は、個々の需要に合わ

せて対応していく点ですね。作業療
法士というのは、フィジカル面とメ
ンタル面、かなり広い範囲をケアし
ていく分野ですが、フィジカルの悩
みもメンタルの悩みも人によって千

差万別です。その人が求めているこ
とや必要なことを一人一人に合わせ
て細かくプランニングしていきま
す。

も、個別の事情に臨機応変に対応し
ていく点は同じと言えますね。

―外構プランも確かにそうですね。
施主様の要望や生活スタイルをしつ
かりヒアリングしてオーダーメイド
で作っていきますので、介護エクス
テリアでも一般的なエクステリアで

中島 統計学的には95%の人が快適
と答えれば合格ラインとなります
が、作業療法では残りの5%の人に
までしっかり寄り添って考えていき
ます。たとえ95%の人に有効なりハ
ビリだったとしても、いま向き合っ
ている人は5%のほうかもしれないな

前号のおさらい

前号でお伝えした「エクステリアと自宅介護」 におけるポイント4つ

- ① 一般的な介護住宅・介護リフォームにおけるエクステリア
- ② 「介護される側」だけでなく「介護する側」の存在
- ③ 建築の考え方では当たり前のことが介護の視点では異なる場合も
- ④ 介護とエクステリアに共通する考え方は「個別の事情に対応する」

このシリーズでは、これら4つのポイント別に分けて中島先生の
具体的なお話を掲載しております。

い。100%全員にしっかり合った提案していきたいというスタンスは外構業者の皆さんとよく似ている部分ではないでしょうか。

◆「ちょっとした手間」がベスト

「最終的なゴールとして「そのらしい生活を実現してもらう」という大きな目的も同じですね。

中島 そうですね。作業を楽しくしてもらえようとお手伝いするのが作業療法士の仕事ですから、お庭で植物を育てるという作業をいかに快適に楽しくしてもらうか、というエクステリア提案の仕方も私たちと似ているのではないのでしょうか。

「作業療法士さんから見ると、例えばお庭を使った趣味を持ってみたいというご要望のある方にはどんな風に提案するのがいいと思われませんか？

中島 健康な方もリハビリが必要な方も同じですが、人間は「しんどい」と思うことは自然とやらなくなります。かといって全てが楽になつてしまうと今度は楽しさを感じなくな

ります。そのちょうど中間くらいの「ちょっとした手間」という作業になるような提案内容がベストですね。遠い水場から長いホースを引きずってきたり、じょうろを持って何度も往復しないといけないような作業が毎日必要になると、きつと次第に足が遠のいてしまいます。しかし、快適に水やりができる環境があれば、「面倒」ではなく、「世話をす

る」という感覚になります。――最近では生け垣や大きな松のあるお宅をあまり見なくなりましたが、脚立に昇って植物の剪定をするのは「しんどい作業」、毎日水を撒くだけなら「ちょっとした手間」ということですね。

中島 どこまでが「手間」で、どこからが「しんどい」のか、その境界線は人それぞれですので、作業療法では患者さんの性格や考え方もしっかりと把握していきます。それと同じように、外構業者さんでも介護エクステリアを提案する際には、お客様の性格や考え方も考慮してご提案をしていくのが最適だと思いますね。

View Points ----- 今回の対談から見えてきたこと

1. 95%の人にも 5%の人にも満足してもらえる提案・お手伝いをしていく
2. 「しんどい」「面倒」な作業ではなく「ちょっとした手間」になるような趣味提案をする
3. 介護エクステリアの提案では、より一層ご家族の人柄に寄り添った提案を

4カ月にわたって、作業療法士さんから見たエクステリアというインタビューをお送りしてきました。今後、より一層ニーズが増え続けていくであろう介護エクステリア。外構業者としても作業療法の多少の知識を持って設計に臨みたいところですね。

次号からは、新しいテーマとなります。対面営業・紹介営業をメインとする生命保険会社のスカウトマンに「紹介営業の極意」「営業マンとしてあるべき姿」について語っていたいただいたインタビューを掲載していきます。どうぞ楽しみに！